

長谷川 智彦さん 長崎がんばらば国体（ライフル射撃）応援レポート 2014/10/20(月)

10月20日。今回の長崎国体応援で初めて、中心都市の長崎市に足を踏み入れた。長崎駅では空港よりも大がかりで、ステージもあり、がんばくん＆るんばちゃん（下の右）が笑顔で迎えてくれた。がんばくん＆るんばちゃんは長崎の県の鳥である「オシドリ」がモチーフ、仲良しの「オシドリ」夫婦。



長谷川さんは既に、今日の伏射の前に行われた(10/18)10mエア・ライフル立射60発で、準優勝という輝かしい栄誉を勝ちとっている。「おめでとうございます！」

私自身、ライフル競技については無知だったので、自分が調べた「スポーツとしてのライフル競技」、「10mエアライフル競技について」を日本ライフル協会のHPと国体ライフル射撃競技会パンフ・HPから引用し、紹介する。



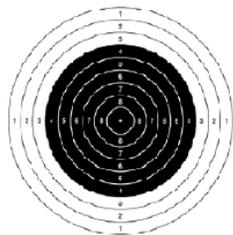
『「スポーツとしてのライフル競技」は身体各部のトレーニング（身体面）・スポーツマンシップ等の人格形成（精神面）・射撃技術の取得（技術面）を三位一体として、銃器という科学的道具を用いて標的上（点数）で自分のすべてを表現するスポーツであり、身体的に精神的に技術的に「より高い自分」の発現を追及するスポーツです。

50mライフル、10mエア・ライフル、AP（エア・ピストル）、BR（ビーム・ライフル）、BP（ビーム・ピストル）は、弾丸や光線で標的を撃つ競技です。制限時間内に決められた姿勢で、決められた弾数を撃ち得点を競います。なかでも「ライフルのマラソン」といわれている3姿勢120発競技は、競技開始前の準備試射撃時間を加えると3時間となり、極度に精神が疲弊し体力も消耗されるために、競技終了後は、かなり体重が減るといわれています。

CP（センター・ファイア・ピストル）は片手で銃を持ち、立ったままで25m先の標的を精密射撃30発（5分間に5発撃ちを6回繰り返す）と速射30発（7秒間隔で3秒間現れる標的を1発ずつ撃つ）で競います。』

『「10mエアライフル競技について」』

この競技はいわゆる空気銃を使用する種目ですが、銃器・弾とも、国際ルールに基づき作られており非常に高い精度を持っています。距離は10m、口径4.5mm、標的の10点圏は半径0.5mmと非常に小さくスコープを通して4点圏内の黒丸しか見えません。国体では立射は40・60発競技があり、制限時間はそれぞれ50分、1時間15分です。伏射は40・60発競技があり、それぞれ50分、60分で実施されます。』



10mエアライフル標的

『標的には点数が決まっている円が左のように描かれており、1発の満点は10点です。決勝では、小数点以下1桁まで採点し、1発の満点は10.9点になります。』

- ◆10点圏 半径 0.5mm
- ◆9点圏 半径 5.5mm
- ◆8点圏 半径10.5mm
- ◆7点圏 半径15.5mm
- ◆6点圏 半径20.5mm
- ◆5点圏 半径25.5mm
- ◆4点圏 半径30.5mm
- ◆3点圏 半径35.5mm
- ◆2点圏 半径40.5mm
- ◆1点圏 半径45.5mm

※9点圏には数字の印刷なし。10点は白点。』



左は長谷川さんの10mエアライフル立射60発の準優勝の表彰式。

下のファイナルの最終結果。

ライフル競技の魅力や難しさを知ると、彼の栄誉がいかに輝かしいものかが、改めてよくわかる。

ちなみに優勝された松本さんは自衛官の方で、いうなればプロ。大学生の長谷川さんが彼に敗れたのはしたものの、得点で肉薄している結果は本当に素晴らしい。改めて、おめでとう！！

ライフル射撃競技 成年10mS60M 2014/10/18

順位	選手	所属	1	2	3	4	5	6	本選得点	ファイナル得点
1	松本 崇志	長崎	103.0	104.5	104.0	104.0	104.5	103.0	623.0	204.6
2	長谷川 智彦	富山	102.7	102.9	101.7	104.4	102.8	102.5	617.0	202.9
3	塩入 龍哉	山梨	102.1	102.7	101.6	101.8	102.0	102.9	613.1	181.6
4	三島 裕介	東京	103.1	103.5	104.5	102.8	101.3	104.2	619.4	160.2
5	篠原 章宏	和歌山	103.0	101.0	101.1	104.5	102.8	102.6	615.0	139.0
6	青山 敬志	千葉	103.9	102.9	105.4	102.4	104.2	100.0	618.8	117.6
7	岡本 和樹	兵庫	102.1	102.1	103.3	100.8	103.4	104.1	615.8	97.4
8	岡田 直也	岡山	103.6	101.7	100.4	103.3	103.4	103.2	615.6	76.9

長崎駅からバスで30分弱、長谷川さんが出場する成年男子10mエア・ライフル伏射60発が行われる長崎県小江原射撃場に到着した。

いよいよ、長谷川さんの10mエアライフル伏射60発がスタート。立射の結果から勝手に優勝を期待していたが、日本ライフル射撃協会の三木さんから信じられない言葉が・・・

「伏射はオリンピック競技にないので、長谷川は全く練習していないんですよ、ぶっつけ本番！」

「またまた、ご冗談を」という前に、試合開始前にやけにフォームを気にしてコーチと談笑する長谷川さんを思い出す。結果はぶっつけ本番でも、28位だった。





試合終了後、長谷川さんに準優勝に対するコメントと今後の抱負について訊いた。
『この度、国民体育大会の10mエアライフル立射60発立射60発で準優勝することができました。この結果に甘んずることなく、次の大会に向けてコンディションを整えて、最終的には世界大会でメダルをとりたいと思います。今後の抱負としては、2020年の東京オリンピックに出場し、金メダルを獲得したいと思います。』
彼の照準は、既に6年後の金メダルにぴったり合っている！！

